

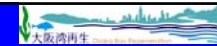
資料2



## 次年度に向けての課題と対応方針(案)



平成18年3月30日 大阪湾再生推進会議



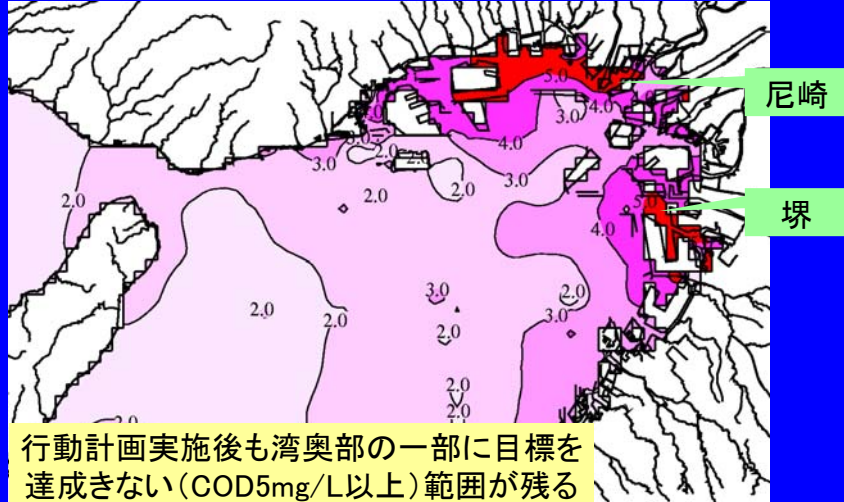
### 水質改善に向けた取り組み

#### ①流入負荷量の一層の削減

- 下水処理場の高度処理化、合流改善のさらなる推進
- 第6次水質総量規制との連携

## 水質改善に向けた取り組み

### ②水質汚濁が懸念される「尼崎」、「堺」の閉鎖性海域をテストケースとした集中的な取り組み



## 「尼崎」臨海部における集中的な取り組み

### 【H17年度】 尼崎シーブルー事業計画の推進

○学識者、行政等からなる検討委員会をスタート

○各種実証実験の実施



関連し推進されている各種事業の一部

- 武庫川下流浄化センターの高度処理化
- 尼崎の森中央緑地(尼崎臨海地域)
- 海岸環境整備事業

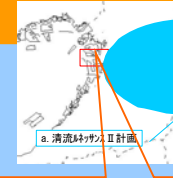


【H18年度】 運河水路内の対策事業化への取り組み

## 「堺」臨海部における集中的な取り組み

### 【H17年度】川・海連携による施策の推進

- 清流ルネッサンスⅡ計画
  - 大和川の浚渫土で人工干潟を造成
    - ・大和川河口浚渫事業
    - ・堺泉北港堺第2区人工干潟の造成
  - 有識者からなる検討委員会をスタート
- 関連し推進されている各種事業の一部
- 堺2区親水緑地整備事業
  - 堺第2区暫定利用緑化



### 【H18年度】

### 「堺浜」における人工干潟実証実験がスタート



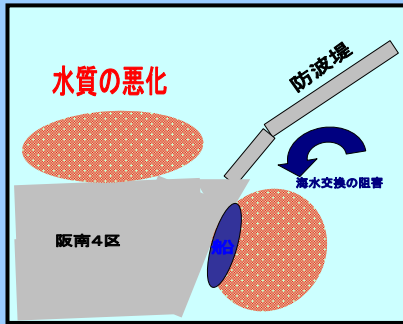
## 大阪湾再生をめざした 港湾計画の事業化に向けて

③大阪湾諸港における港湾計画改訂に関して  
「大阪湾再生」に向けた計画が大きく盛り込まれている

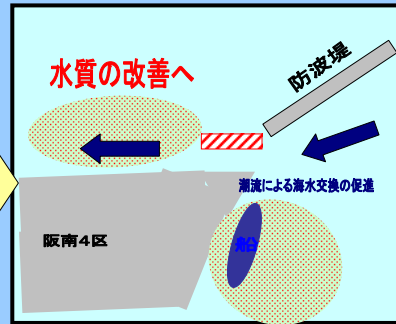
- 防波堤の再配置による海水交換の促進
- 浅場、人工海浜、緑地の増設

上記などの計画を事業化に向け検討

## 防波堤の再配置による による海水交換の促進 : 阪南港の例



○船舶の波からの安全性(静穏度)を追求とした防波堤施設であったため港湾区域内での水質悪化が常態化



○船舶の波からの安全性(静穏度)を損なわない程度での防波堤の再配置(移設)を行い、水質改善を行う。

早期事業化に向けて検討

## 環境に配慮した施設 の原計画からの増加率

● 浅場 ..... 1542%UP  
(37ha増)

● 人工海浜 ..... 105%UP  
(5,970m増)

● 臨海緑地 ..... 33%UP  
(62.4ha増)

早期事業化に向けて検討

## 市民との協働の取り組みを拡大

### ④「人の和」の好循環による市民参画を拡大

- 「アマモの移植」を通じた環境学習、環境再生への取り組みを継続
- 人工干潟による生物調査などを新規に実施(堺浜)
- 川・海で実施されているクリーンアップ活動を協働で情報発信  
(ごみ袋にロゴ等を入れ、統一的な取り組みをめざす)

## 広報活動(情報発信)の強化

市民参画活動が多様化(多様な主体、内容の高度化)

- ⑤「大阪湾再生ニュース」(仮称)の発行  
(WEB版を中心)
- ⑥「パンフレット」を発行

市民参画活動の情報プラットフォームとして活用

## 新たな参画による体制強化

- ⑦「堺市」の参画